

ぼく、
捨てられちゃった。



草原の椅子

s o u g e n n o i s u

血のつながらない子供を愛したとき、
もう一度生き抜くと決めた男二人と女一人。



佐藤浩市 西村雅彦 吉瀬美智子

小池栄子 AKIRA / 黒木華 真光奏風 中村靖日 / 若村麻由美 井川比佐志

原作：宮本輝「草原の椅子」（幻冬舎文庫、新潮文庫刊）

監督：成島出 脚本：加藤正人 奥寺佐渡子 真辺克彦 多和田久美 成島出 撮影監督：長沼六男

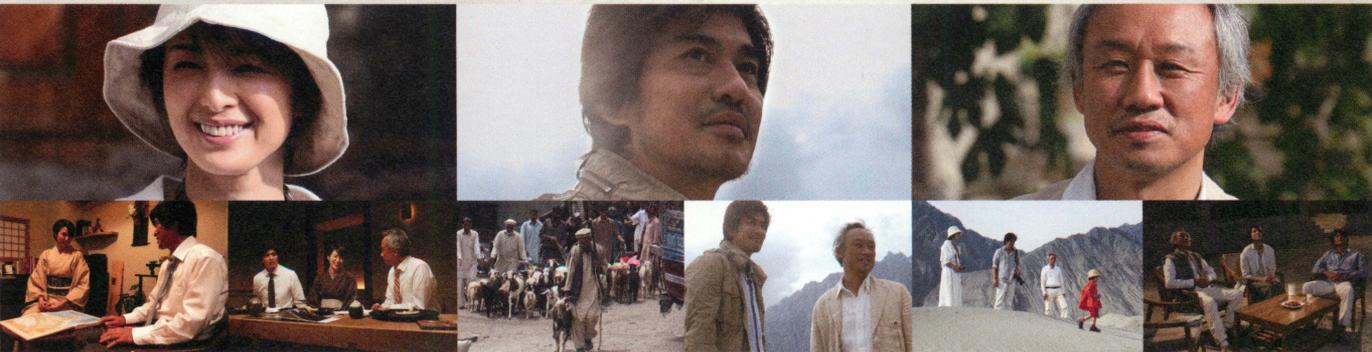
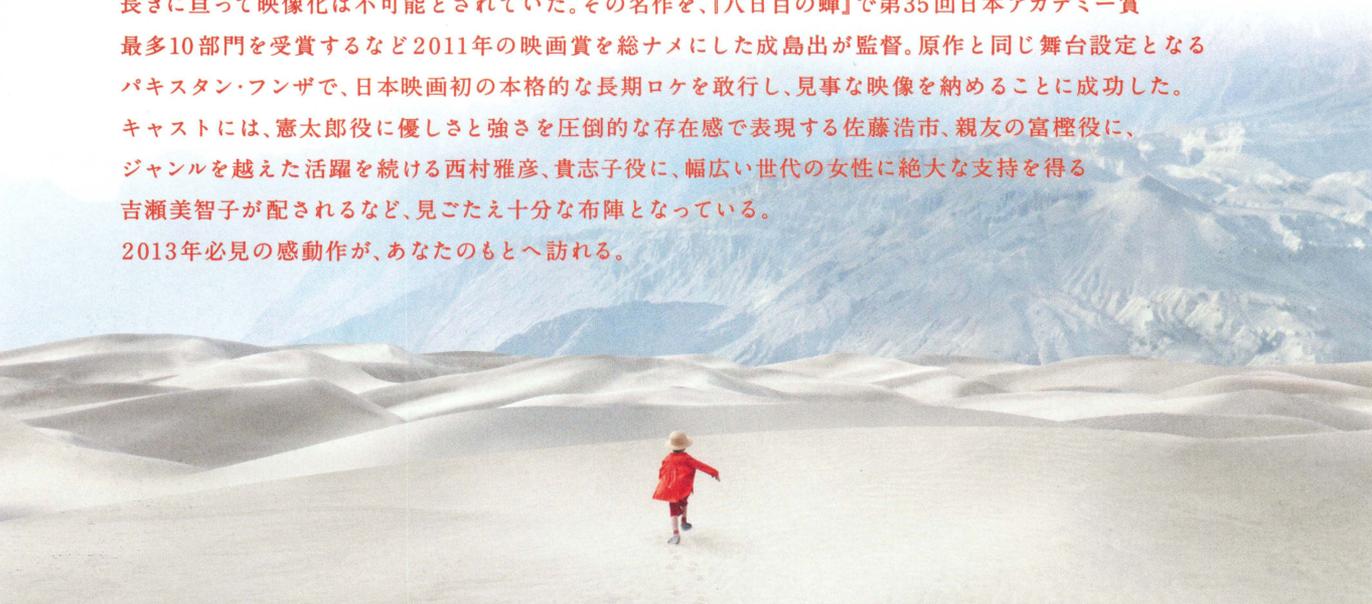
エグゼクティブ・プロデューサー：原正人 企画・設計：原オフィス 製作プロダクション：東映東京撮影所 配給：東映

主題歌：「真昼の月の静けさに」GLAY (loversoul music & associates)

日本から世界最後の桃源郷、フンザへ。 それは、希望へ旅立つ物語。

バツイチで、年頃の娘と二人暮らしの遠間憲太郎に、50歳を過ぎて三つの運命的な出会いが訪れる。ひとつは、取引先の社長・富樫に懇願され、いい年になってから親友として付き合い始めたこと。もうひとつは、ふと目に留まった独り身の女性・貴志子の、憂いを湛えた容貌に惹かれ、淡い想いを寄せるようになったこと。3つめは、親に見離された幼子、圭輔の面倒をみるようになったこと。憲太郎、富樫、貴志子の3人は、いつしか同じ時間を過ごすようになり、交流を深めていく中で、圭輔の将来を案じ始める。年を重ねながら心のどこかに傷を抱えてきた大人たち。そして、幼いにも関わらず深く傷ついてしまった少年。めぐり逢った4人は、ある日、異国への旅立ちを決意する。そして、世界最後の桃源郷・フンザを訪れたとき、貴志子が憲太郎に告げる。「遠間さんが父親になって、私が母親になれば、あの子と暮らせるんですよね」

大人のための素敵な寓話が誕生した。登場人物たちの心の葛藤が、時にユーモラスに、時に優しく丁寧に綴られ、人生の岐路に立った者たちに向けて温かな希望を投げかける――。原作は、登場人物の繊細な心の動きや、大自然の描写の美しさで絶賛されている宮本輝の同名小説であり、長きに亘って映像化は不可能とされていた。その名作を、『八日目の蟬』で第35回日本アカデミー賞最多10部門を受賞するなど2011年の映画賞を総ナメにした成島出が監督。原作と同じ舞台設定となるパキスタン・フンザで、日本映画初の本格的な長期ロケを敢行し、見事な映像を納めることに成功した。キャストには、憲太郎役に優しさと強さを圧倒的な存在感で表現する佐藤浩市、親友の富樫役に、ジャンルを越えた活躍を続ける西村雅彦、貴志子役に、幅広い世代の女性に絶大な支持を得る吉瀬美智子が配されるなど、見ごたえ十分な布陣となっている。2013年必見の感動作が、あなたのもとへ訪れる。



「草原の椅子」製作委員会 東映/木下工務店/ティー ワイリミテッド/ホウショウ/東映ビデオ/テレビ朝日/プレジデント社/フィールズ/キングレコード/読売新聞社/博報堂/博報堂DYメディアパートナーズ/北日本新聞社/ユース・プロダクション